

大阪市立大学 平成30年度の主な成果

第三期中期計画 (要旨)

第三期における大きな目標として「新たな公立大学モデルへの挑戦」を掲げ、新たに設定した3つの重点戦略「社会の発展を牽引する先端的研究・異分野融合研究の推進」、「国際力豊かな高度人材の育成」、「都市大阪における健康等の諸課題解決力の強化」により、これまでの取組みを継続・発展させ、世界に展開する高度研究型総合大学として、都市大阪のシンクタンク機能を担う役割を果たし、大阪の発展を牽引する知の拠点をめざす。また、大阪府立大学との統合による新大学実現に向けた準備、連携・共同化を推進する。

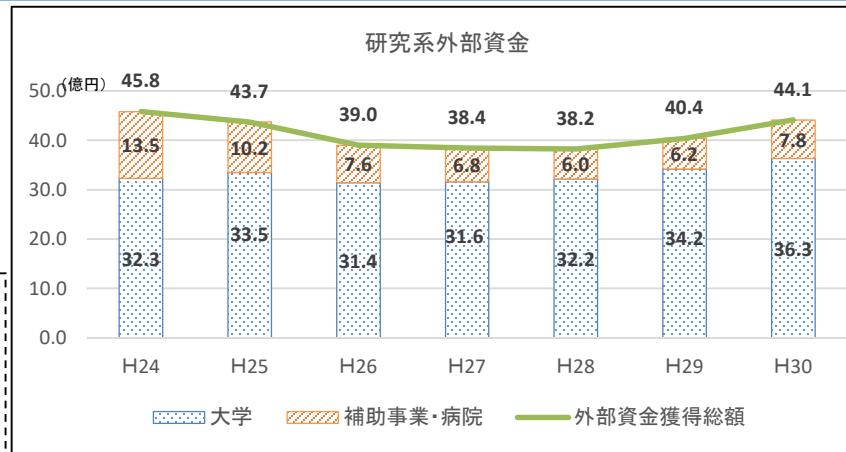
重点三戦略の主な成果

【社会の発展を牽引する先端的研究・異分野融合研究の推進】

- InCites (分析ツール) を用いて、研究科等の国際共著論文の現状を把握した。 [No.17]
- 知と健康のグローバル拠点事業推進研究 (健康科学分野に関する異分野融合研究) を対象として学内公募を実施した。 [No.17]
- 合同会社ウェルネスオープンリビングラボとの包括連携協定に基づき、研究・助成制度を創設した。 [No.24(異分野融合研究)]

< Topics >

- 「南部陽一郎物理学研究所」を全学組織として設立した。
- 平成30年度「再生医療実用化研究事業」(AMED)に、医学研究科障がい医学・再生医学寄附講座新宅治夫特任教授を研究代表とするテーマが採択された。

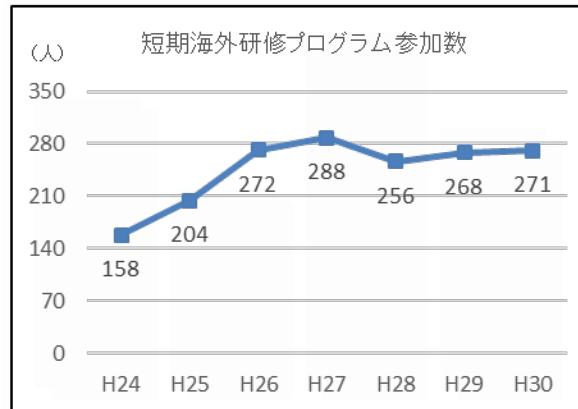
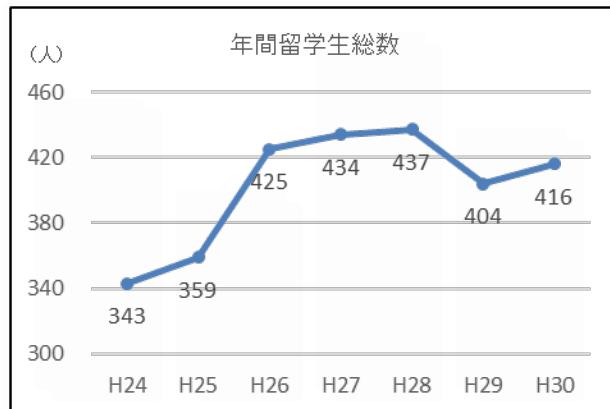
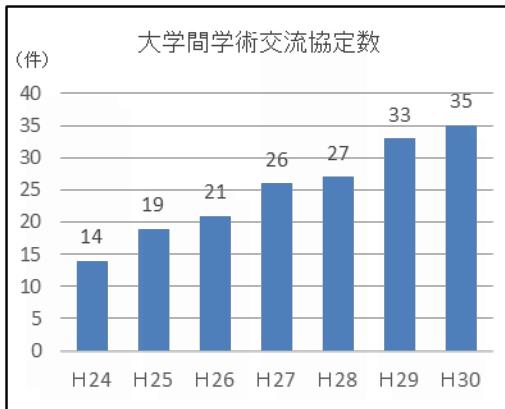


【国際力豊かな高度人材の育成】

- 定期的にOCU英語能力自己評価アンケートと英語共通テストVersantを実施することで、学生自身の英語能力評価及び学力測定を引き続き行った。 [No.6]
- 平成30年度「大学の世界展開力強化事業」に、本学が申請した「日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム」が採択された。今年度から5年間で1億円程度の補助金が交付される。 [No.26]

< Topics >

- 経済学部では、語学力、グローバル・コミュニケーション、問題発見、理論・分析の全てについて、学部の定める一定の条件を満たした学生をエクセレント・グローバル・プラクティカル・エコノミスト (EGPE) として認定する制度を導入した。



【都市大阪における健康等の諸課題解決力の強化】

- 大阪市における課題解決に向けたプロジェクトにつなげるためのスタートアップ支援事業を実施し、大阪市から寄せられたニーズ11件に対し教員とのマッチング・コーディネートを行った。 [No.21]
- 「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議にアドバイザーとして看護学科教員が参画し、大阪市の母子保健システム全体の再構築及び検討を行った。 [No.21]
- 大阪市職員提案制度「若手応援部」について、教員による支援を行った(2件) [No.21]

< Topics >

- 大阪市立大学「福祉局ビッグデータ解析プロジェクトチーム (看護・医学・経済・都市経営の教員から構成)」が大阪市の10年間累計約20万人分のデータを解析し、要介護認定を受けた高齢者の特徴を明らかにした。

戦略を推進する運営力の強化

- 女性研究者支援の実施 [No.19]
- クロスアポイントメント制度を活用し大阪大学から2名の教員を受入れた。 [No.33]
- 外部資金獲得総額44.1億円(達成率110%) [No.24]
- 研究者データベースの追加開発による業務軽減 [No.37]



新大学に向けた検討・手続きの推進

- 新法人の役員体制、法人組織の検討 [No.48]
- キャンパス構想については、新大学設計4者タスクフォースで2017年8月とりまとめた報告書に記載している「キャンパス再編の検討の考え方」に基づき、新大学推進会議等で審議のうえ、新大学の教育研究組織とキャンパスの考え方について2018年7月の新法人設立準備会議で府市へ説明を行った。以降、4回開催した新法人設立準備会議等で府市と意見交換を重ね、3月29日に現時点での構想案について文書にて知事・市長へ回答を行った。 [No.49]